

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、これから私の一般質問をさせていただきます。

改めまして、皆さん明けましておめでとうございます。もう日がたつにつれ、この「おめでとうございます」もだんだん気が抜けたような感じになりますが、この本議会の一般質問も、私、そして、あと上田議員から最後に大トリをとっていただきます。あと2人ですので、もうしばらく御辛抱いただきたいというふうに思います。

ちょうど今2時20分、午後のまどろみの時間です。お昼もおとりになって、満腹になって大変桃源郷に入っている方が画面の向こうにいらっしゃるかもわかりませんが、どうぞおつき合ください。

今回の一般質問に先立ちまして通告をいたしましたのは、大きなテーマとしては、新しいまちづくりについてであります。

まちづくりは、やはり人づくりが大事であります。人なくしては町の形成はありません。また、成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安心・安全を考え、守っていくには、議会、そして行政の責任は重大であります。

今回の一般質問は、市民病院問題について、教育について、商工行政について、そして、地域の安心・安全についてであります。るる市長、また教育長にお尋ねをしていきます。順番は少し変わるかもわかりませんが、お許しをいただきたいと思います。

まず最初に、年末といいますか、師走の時期に、樋渡市長におかれましては辞職をされました。直ちに市長選挙となったわけでありまして、大変に慌ただしい師走でありました。皆さんにおかれましても、それぞれいろんな思いでその活動をされたことと思いますし、今度の選挙で特段特筆すべきは、やはり武雄の市民が、きのう山口大先輩議員もおっしゃっていましたが、武雄市民のことを考えるのは、市民一人一人ですという、そういう思いで皆さんが活動をされた。特に市民の会という、明るい武雄市をつくる市民の会という団体の活動は本当に一生懸命されていたと思いますし、武雄市、新しい武雄市に新しいまた波紋を投げたのではないかと。この運動がまだまだ継続をされるということでもありますので、今後とも頑張っていたいただきたいと思います。で、結果は、ごらんとおり、樋渡啓祐市長が再任をされたわけでありまして。

このことについて、この選挙戦を通じてどういうふうに市長はお考え、また、どういうふうに受けとめられましたかということをお尋ねするつもりでございました。が、先ほど、るる述べておられました。あえてまたここで重ねてお尋ねをいたしますが、1万2,495、この数字も含めて、今の市長のお考え、そして、どういう思いを持っておられるかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は本当に安心をしました。先ほど前田議員から安心・安全を守るため行政の議会の責任は重大であるということ、これは私も全く一緒なんですね。これが今回の市長選で御理解をいただいたというふうに実は思っております。

1万2,000というのは、お相手の候補の票数だと思いますけれども、私はこれに対してどうだと一刀両断に決めつけるつもりはありません。いただいた私の批判票についてはさまざまあります。そういったことをきめ細かく今度、武雄市長でありますので吸い上げていき、それをきめ細かな市政運営に当てていく、それは議会とともに当てていくことであります。そういった意味で、私は、市長、行政の長であると同時に、前田議員、私も同志だというふうに思っております。30プラス1であります。そういう意味で、我々の政治家のなすべき役割というのを今回の選挙戦でも深く痛感をいたしましたので、この明るい市民の会の皆さんたちが本当に明るい武雄市になるように一致団結、協力をして、いい武雄市、そして、いい医療環境になるようにしていただければありがたいというふうに思っておりますので、ぜひ強い影響力をお持ちでおられる前田議員からもその旨をよろしくお伝えいただければありがたいと思います。一致団結がこれからのキーワードだというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

樋渡市長から同志という言葉いただきました。同志であるならば、ぜひおごることなく、これからの私の一般質問にお答えをいただきたいと思います。

さて、話をこっちに移しまして、学校に行きます。

まず、武雄市内の小・中学校の数を教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

小学校が11校、中学校が5校であります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

この武雄市内には今11の小学校と5つの中学校があるということでした。それで、学校の耐震化ですね、このことについてお尋ねをします。

学校耐震化加速に関するお願いというのが文部科学省の大臣から出されております。このほど学校施設の耐震化に対する国の緊急措置云々でありますね。ずっと飛ばしますが、特段

の事情がない限り、各市町村にも原則3年程度を目標に取り組んでいただきたいというふうな大臣のほうからのお願いが出ていると思います。

それで、今の武雄市内の小・中学校の耐震化の調査といたしますか、そういったものはどの程度進んでいるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

耐震性の調査につきましては、川登中学校の1棟を除きまして全部済ませておりまして、その公表につきましては、今後の改築、あるいは耐震補強、こういったものを計画されましてから公表するというところで予定をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私これ以前に質問をしております。19年の12月の議会であります、そのときに、武雄小学校の体育館のことをお尋ねしております。学校改修、また、改築等も含めたことでもあります。それで、武雄小学校の体育館、ああいうふうなところ、学校はどこでもそうでしょうが、いろんな意味で子どもたちの学ぶ場所でもありますし、また、それだけじゃなく、その学校施設については災害時の緊急避難場所とか、そういったものにも避難場所として位置づけられておるわけでもありますし、そして、前回も武雄小学校の体育館、ここには、災害の訓練があったときでした。そのときに避難場所として、そこで集合をして、いろんな防災の訓練を、また、お話を受けたところでもあります。そのときの、12月のときも同じような気持ちであります。実際雨漏りもしている建物であるし、また、非常に窓のあけ閉めががたつき、また、いろんな閉まらないとかいう部分もあるようでございます。この武雄小学校については耐震の調査はどういうふうになっていきますか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

その前に、先ほどお答えしました耐震診断の関係で、川登中学校のことを申し上げましたけれども、川登中学校の特別教室等につきまして、実は市の建設課のほうで耐力度の調査を行っております、これで耐力度が不足をしているという結果が出ておりましたので耐震診断を行っていないということでございます。

それから、武雄小学校の体育館の件ですけれども、これは先ほどお答えしましたとおり、全体の計画を一括して公表をしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ということは、それはいつごろ一括して発表するんですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

耐震診断につきましては、結果をいただいておりますので、これをもとに財政計画を立てているという段階ですので、これは企画部、あるいは財政課のほうとも調整をしながら、最終的に市長と相談をして、公表していくということになります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その武雄小学校の体育館の診断の結果というのは、どの程度のものですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

重ねて申し上げますけれども、武雄小学校につきましても、市内の耐震診断の結果を踏まえまして、全体として一括して公表したいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ということは、今の段階では何も言えないということですね。調査は済んでいるけれども、そういうことは何も言えないということですね。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現時点で公表する段階にないというふうに考えております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

別にそういうことをやっているわけじゃないんで、いろんな意味で公表する段階じゃないでしょうけれども、それぞれの、何も武雄小学校だけじゃないでしょう。いろんな学校施設老朽化が進んでいます。そういうところで、早くうちの学校もしてほしいという地域の願いもあるわけですから、できるだけ早い時期にそれが発表できるようにお願いをいたします、

要望いたします。

それでは、次に行きます。地域の安心・安全であります。

これは、議長こういう資料を読みますけど、いいですか。

○議長（杉原豊喜君）

どうぞ。

○13番（前田法弘君）（続）

「危険潜む環境を改善」ということで、これ読売新聞だったと思います。そのホームページからのプリントであります。子どもたちを犯罪から守るという地域の話題がずっと掲載されておりました。

これも以前にお尋ねをしたかもわかりませんが、各学校で安全マップなるものを作成されていると思いますが、全部それがされているのか、また、その活用はどういうふうになっているかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

各学校におきましても、すべての小・中学校で安全マップが作成されておりまして、これは校内に掲示してあるので目にされた方も多いと思います。児童・生徒に注意の喚起を行っているというところがございます。また、それをもとに職員、PTA、育友会の方々、危険箇所を見たり、あるいはパトロールのときに生かしたりということで活用しているというところがございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私も御船では見たことがありますが、その内容は、マップの内容というのはどういうふうになっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

内容はすべて共通しているというわけではございません。地域の状況にもよりますので、当然変わってくるわけでありますが、通学上の危険な場所、あるいは遊ぶときの危険な場所、あるいは学校によってはこれまで事故の起こったところとか、そういうことで、その地域に合ったマップを作成するというところに工夫してあるということを見ております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それぞれの学校でそれぞれの特色のあるものを、特色というか、その町でのことを書いてあるわけでしょうけれども、これを高学年はある程度見れるでしょうけれども、低学年に対してどういうふうな指導をされていますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話のとおり、学年、年齢に応じて危険の内容、あるいはその対処等々変わってくるわけです。作成の段階で違ってこようかというふうに思います。帰る時間も違いますし、低学年にとっては、中学生では危険じゃないものでも、やっぱり危険なわけです。具体的には、例えば保護者と一緒に歩いてつくとか、あるいは学年が進むにつれて更新するとか、あるいは自分で作成して家庭に持ち帰って、また見直して相談するとか、そういうことでさまざまにこれもまた工夫して対応しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そういうふうで、一番心配するのが平均的につくっても、やはり低学年に対して、小さい子どもさんたちに対してそれをどういうふうに分らせているのかなど、そういう思いがありました。そういう気持ちがありました。

よその地域でもそうでしょうけれども、大人や先生や、また高学年というかな、そういう人たちが見る見方と、やはり低学年から見た危ないなとか、不思議だなとか、そういうものの見方というのがそれぞれに違ってきますでしょうから、そういったものもやはりされると思いますけれども、十分に入れてそういったものを作成していただきたいと思います。

また、それらの地域がそれをどういうふうに使っているかですね、そういったものについてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

声かけ不審者ということで教育委員会に報告を学校からもらうわけですが、18年度が10件ございました。19年度が8件、今年度、今の時点で3件でございます。これはもちろん報告いただいた分でございますので、それより減ることはないわけですが、それより多い場はあり得るわけで、あるいは高校とかを加えますと、また数はふえるのかもわかりません。ただ、全体的に非常に安心・安全の確保ということで地域で一生懸命取り組んでいただいているということに感謝をしているところでございます。

特に、マップの関係でいきますと、例えば、110番の家として御協力いただいているところがありますし、あるいはさまざまな団体で、あるいは個人でボランティアとして、つじつに立っていただいているという状況も御承知のとおりでございます。防犯パトロール等にも生かしていただいているという状況がございます。

また、市連Pのほうで、今年度助手席のサンバイザーにつける防犯パトロールという黄色いステッカーをしていただいております、これにもまた感謝をしているというところでございます。

市民挙げて、地域ぐるみで子どもの安心・安全を守っていただいていると、これもまた安全マップに反映させて生かしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。学校はそういう取り組みをしていただいています。また、各地区で安全マップというか、そういったものをつくっておられたというふうに思いますが、その地域地域、地区地区のマップですか、災害マップというんですか、防災マップ、防犯マップというのですかね、そういったものは全地区できていますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

安全マップというような形での作成はされておられません。ただ、災害に関しまして、自主防災会というのを随時設立していただいております。そういう中で、それぞれ自主防災会の中身はいろいろありますけれども、その防災マップの中に危険箇所を入れたり、危険道路を明記したりとか、そういったことを含めてやられているところもございます。

ただ、今市内では順次設立をしていただいているというところでございまして、全地区までは設立ができていない状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

まだ全地区では完備ができていないということですが、できた地域あたりでのそれらの活用はどういうふうに指定されているか、今何か知り得たものはございませんか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

一昨年から市を挙げて、防災訓練を9月の第1日曜日に消防団を中心に行っていただいておりますけれども、そういう中で、自主防災会で作った災害マップ等を訓練の中で生かすということも行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

いろんな地域でいろんな取り組みをされておりますでしょうけれども、前回ですね、9月にこれも質問をいたしておりましたが、そのときのことでもありますけれども、その空き家のことでお尋ねをしております。最初どこから始めたか、ずっとぐるぐるっと回って、結局、総務部でお答えをいただいたと思いますが、空き家を専門的に調査をしているところはないけれどもということで答弁をいただいておりますが、まだこの調査は行われておりませんけれどもということで、その後これがどういうふうになったのかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

9月に前田議員が質問された後に、11月9日の防火デーですか、そこを中心に消防署のほうで空き家に関する管理状況調査というのを実施されております。これにつきましては、消防団及び区長さん方の協力を得ながら、11月9日からの秋季全国火災予防運動に合わせて実施をいただいております、これは行政区と位置図の作成というようなことも行っていただいております。

現在、12月末までに各部からの報告状況を集約されておりますけれども、お聞きしましたところ、現在7割程度で224件の空き家を確認されているというようなことでお伺いしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その空き家でありますよね。町中にもばらばらと空き家が出てきているようです。けれども、何ですか、人は住んでいないけど電気はそこまで来ているとかですね。もちろん水もとめてあります。電気もとめてあるところもあれば、電気は使っていないけれども、来ているというところも、中にはそういう空き家もあるそうです。

たまたまそういうふうな空き家に、前回も言ったことですがけれども、浮浪者なりなんなりが入ってみたいり、または、子どもたちが間違っって入って、例えば、その建物が老朽化していて、崩れてということもあり得るわけですよ。ですから、そういう意味で安心に地域の人

が、また地域の子どもたちが生活をするために、学校にまた元気に通うためにもそういうものの管理はそれぞれの持ち主が管理をしなくてはいけないでしょうけれども、そういったものを喚起するというかな、注意をするというか、そういうことはできるんじゃないかと思えますので、お願いしたいと思います。特に、今後それをどういうふうにするかというところに対しての対応をお考えかどうかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

確かに、空き家については防犯上の危険な箇所ということもあります。そういったことで、消防署におきましては、空き家へ自由な出入りができないように、さく等の設置、施錠の徹底などの命令を行うことができるというようなことになっております。そういうことで、所有者がはっきりしていれば、署のほうから改善の指導を行うと。所有者が不明確な住宅等につきましては、区長さん方をお願いをしまして、地域でも注意を払っていただくようなお願いもしていくというようなことで、対応を図っていききたいというようなことでお聞きしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひそういうふうなところにも気を配っておいただきたいし、もちろん、先ほど言いました地区のマップですかね、そういったものにも落とし込みができればいいし、また、学校のほうでつくっている安全マップにももちろん書いてあるかもわかりませんが、そういったものも何かの表示をしておいて、それこそ低学年、特に低学年に対してはそういう指導もしていただきたいと思えます。

それで、今度のお尋ねは、そういうふうな安心・安全を考えていくときに、今大変に交通事故がふえております。もちろんシーズンのなこともあったかもわかりませんが、児童・生徒の交通事故あたり、そういったところの現状がわかりますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話のとおり、安全面、特に気をつけて、配って指導しているつもりでございますけれども、交通事故につきましては、残念ながら今年度非常にふえておりまして、18年度に報告があったのが21件、19年度27件、今年度、今までに32件という数値になっております。特に本当にひやりと肝を冷やすような大きな事故もあつたりしまして、学校等々、保護者含めて指導しておりますけれども、非常に苦慮しているというのが実情でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

年々とふえているようですよね。18年21件、19年27件、20年32件という数字であります。こういう事故というのはどういうスタイルの事故というか、事故の形ですか、はどのような事故が多いんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど申しました18年度21件のうちの13件が自転車に乗っていたときの事故でございます。19年度27件のうちの19件、今年度32件中の26件、報告いただいた子どもたちの交通事故のうちの非常に多くの数が自転車による事故ということで、特に交差点、それから、自動車との接触、軽い接触まで報告いただくわけでございますけれども、そういう事故、接触事故とか、交差点での事故と、3差路、あるいは細い道からの大きな道へのそういう交差点ですね、そういうところでの事故が多いというのが傾向としてあります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

交差点での事故とかということではありますが、その自転車であります。今もそうでしょうけれども、自転車で学校に通うときは当然学校長さんの許可も要りますし、ある程度の距離の規制があったかと思えます。今ももちろんそういうのがありますでしょうけれども、その自転車に対する指導、子どもたちは何も学校に通うだけに自転車を使っているわけじゃありませんで、家に帰ればちゃっちゃらちゃあで乗ってさるく子どもたちを時々目にします。非常に危険なときも目につくようではありますが、そういう帰宅後でも含めたそういう指導はどういうことをされていますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話のように、小学生は家に帰ってから自転車に乗るというわけでございます。中学生は通学するとき乗っているわけではありますが、今町内で子どもたちが自転車に乗るときにヘルメットをかぶっている子がふえているように感じられるんじゃないでしょうか。

非常に増加傾向にあるということで、先般PTA、育友会の会長さん方の折にも、名称をつけまして「武雄っ子全ヘル運動」と、運動としてこれは取り組むべきことじゃないだろうかということを提案いたしまして、武雄っ子は、武雄の子どもたちは自転車に乗るときは必

ずヘルメットをつけると、それが当たり前という形にできないだろうか、3年間ぐらいでできないだろうかという気がするわけでございます。

校長先生方にもお願いしまして、今かなり子どもたちがそういうふうヘルメットをかぶっている姿を見ます。また、学校のほうでも、より安価で丈夫なのが紹介できないかというようなことで取り組んでいる学校もございます。

難しいのは中学生でございます。特に学校に部活で通ったりするときにはいいわけでありませうけれども、休日等のヘルメットというとなかなか難しい状況がございます。しかし、これは小学生のときから徹底して運動として取り組んでできないだろうか、市民皆さんがヘルメットをかぶらずに自転車に乗ったたら注意をしていただくという共通の思いでしていただいたら、この二十何件、32件とかいう数値も減らすことができるんじゃないかなというふうな思いがいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

もちろん、その子どもたち同士の注意の喚起もありますでしょうし、やはりこれもできればというか、地域の皆さんとのコミュニケーションも含めて、地域ぐるみで見守ってあげるという、そして、注意をするところは注意してあげることが必要になってくるんじゃないかと思えます。何もわざとヘルメットをかぶらないわけでもないでしょうから、少しずつ優しく注意をしていけば、そういう子どもたちも減っていくし、不幸にならなくて済むと思えますので、お願いをしたいと思います。

そういったものに対してもありますが、また自転車でしょうけれども、歩いて登校するとかいう場合に、これは武雄小学校の場合ですけど、非常にあそこの道路が、桜町、あそこの道路が狭うございます。もちろん改良をするにしても、そういうところの整備も含めて必要かと思えますが、それは大がかりな話でありまして、しかし、スクールゾーンとか、そういったものの交通安全標識、そういったものはもちろん公式にあるわけですけども、また、何も武雄小学校だけに限らず、いろんな小・中学校でスクールゾーンというものの小さなそれぞれの学校で、またPTAあたりで表示をされているところがあると思うんですね。そういったものももちろんPTAの会費の中で、またいろんな各種団体の御援助の中でそういう表示をされているかもわかりませんが、学校としてもそういうものの表示物の補助なりなんなりが考えられないのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話のように、通学路等にいろんな表示をしていただいております。いろんな団体からし

ていただいております。あるいは地域で率先してしていただいております。

学校がそのために予算化しているというのはない状況じゃないかなというふうに思います。PTAと協力しながら設置していると、あるいは中には、それがもうちょっと老朽化して、ちょっとはずしたほうがよくないかというようなことも時々あるわけではありますが、中には子どもたちが一緒に作成したというようなものも見ます。

そういうことで、訴える力のあるそういう表示を考えていかないといけないと思います。現実には、そういうことで保護者の皆さんの御協力を得て、地域の方の協力を得て表示をしているという実情かと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

交通安全、また、そういう子どもたちを守るためにも、厳しい中ですが、少しでも御援助をいただいて、不幸な子どもが出ないように、不幸な家族が出ないようにしていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

次に移ります。

平成20年の観光客の実績は出ておりますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今現在、結果が出ておるのは19年度まで、20年度については今からの調査ということになります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

いつごろ出ますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

観光動態調査の件でございますけれども、毎年2月ぐらいから各旅館等の施設に依頼をしまして、最終的に集約できるのは5月の連休明けぐらいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

5月の連休明けだそうです。予測として、19年と比べて伸びていると思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、19年度につきましては、高校総体等もございまして、宿泊については若干増加の要素があったわけですが、逆に簡保の一時閉鎖とか、そういうのがありまして、宿泊については若干の減少がっております。ただ、日帰りについては、「TAIZO+TAKEO展」等の関係で増加をしておるという状況です。

それから、20年度については、今からの調査でございますが、先日、福岡のほうのエージェントを訪問したときに、最近の世界を含めた不況の中で、今までにないような落ち込みと、今からですね、そういうのが考えられるということで、20年度についても横ばいか若干の減少だろうというふうなことで考えています。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それでは、次に、新幹線の建設事務所がせんだってあそこにできましたね。その新幹線の建設事務所の現状、そして、今後の見通しについてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

新幹線の正式名は、日本鉄道・運輸機構武雄鉄道建設所とありますが、これについては、昨年の11月19日に開所式が行われまして、武雄のほうと大村のほうに建設がされています。

そういうことで、武雄の建設所については、武雄温泉駅から嬉野の俵坂トンネル、そこまでの約15キロを担当するということで、昨年からまだ現地の調査等がございまして、実際の工事は今からということで、今は無人ですが、必要に応じて福岡のほうから来てもらっているということで、具体的に工事が始まりますと建設所の規模そのもの、それから、職員も配置をして今後軌道に乗っていくということで聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私は、先ほどの大河内議員と違いまして、新幹線については推進派でございますので、このことは大いに進めていってほしいと思います。

新幹線整備事業に対する、いわゆる市内業者、これはもう景気浮揚のためにも地元育成のためにもぜひ必要ということで、いろんな形でお願いをされていると思います。が、それに対しての市内業者の活用についてはどういふふうにされていますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、県の段階におきまして、昨年の10月20日に九州新幹線西九州ルート建設投資効果の佐賀県内への拡大を推進する会というのが発足しております。通称、推進する会といたしますが、その交付税につきましては、県の商工会議所の連合会、それから商工会の連合会、中小企業団体中央会、この組織をもって、とにかく市内、県内含めて活用していこうということで発足をされております。まだ具体的にはどういう取り組みをするということは今からですが、それを受けまして、昨年の11月28日の日に市内のほうで武雄の商工会議所、それから、山内、北方の商工会の主催で新幹線建設工事にかかわる物品関係、工事関係、そこら辺の説明会がされております。

そういうことで、今後受注を希望する業者のリストをつくりまして、さっき言いました国土交通省等に営業活動をするという段取りでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

もちろん、そういう市内業者とはいえ、たくさんの業者がいらっしゃるわけです。そのリストを整理してということですが、それにはもちろん市外業者も当然入ってくるわけでしょう。となれば、そこでの整理も大変かと思いますが、やはり第一は市内業者というふうにお考えをいただいて、このことについての推進をしていただきたいと思います。

そこで、この選挙の間に2つ3つちょっとお尋ねをせんといかんような話が出てまいっております。1つは、市長といいますか、当時は樋渡啓祐候補者でありましたでしょうが、医療城下町という言葉なのかどうなのか、私は正確にわかりませんので、聞いた分ではっております。医療城下町という構想がされるというふうにお聞きをしました。ですから、これはどういうお考えで、どういうことを目指しておられるのか。もう今市長になられましたので、そのことについてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと名前が悪かったなと思いますね。今企業城下町で、今日本が暗い雰囲気になっているときにちょっと医療城下町と、これ多分佐賀新聞だったと思うんですけども、取材で申し伝えましたので、それからちょっと反省をして、医療を中心としたまちづくりというふうに言いかえております。

その心は2つあります。1つはソフト。要するに今回の池友会の病院が武雄町のしかるべ

き場所に設置をされると、税金は1円も使わずに設置をされるといったときに、これこそが市民の救命ですよ、安心・安全の中心地、センターになるということ。それとハード面においては、さっきよりちょっとダブりますけれども、この病院を中心として、恐らくその近くにクリニックであるとか、あるいは既存の病院、開業医院の皆さんたちも相協力するということになると思いますけれども、その病院を中核として近くにクリニックができて、それと、これは池友会のプレゼンテーションでもありますけれども、正看護師の看護学校を設置すると、あるいは寮をつくるということからすると、それが次々に乗数効果、波及効果を伴って、あるところは、場所は保養村等にホテルを構えたいというところも来ております。そういったところで、さまざま、これは民のことですので、我々決定権はありませんけれども、どんどんそういうハードが集積していくものだというふうに思っております。

これは和白病院がそうなんです。和白病院も田んぼの真ん中に病院がまずできたということ、それで、隣にホテルができて、その前はショッピングセンターができて、その前のところは家とかマンションが建ち並んでいるということ、それで、何人かの和白区の住民の方々に聞いたら、「何でここに住んだんですか」と私が聞いたら、「いえ、ここに病院があるから住みました」ということなんです。したがって、そういうふうに日本の地方で初めて本格的な医療を中心として人が住んでいただけると、あるいは本来、働く場がなくて出ていくような人たちも住んでいただくということになるかと思えます。

あわせて雇用の問題であります。雇用については、これは前田議員のほうがもう詳しいと思いますけれども、プレゼンテーションの場でも500人から700人の雇用は確保したいと。これは病院だけで済む問題ではなくて、さまざまなところに関連の産業、企業がそこに集積になることになると、その雇用の効果も、まだ概算はしておりませんが、ある程度やっぱり見込めるのではないかと、500人以外にも見込まれるのではないかとというふうに思っております。

そういった意味で、雇用が生まれ、所得が向上をし、そして、地元のお土産屋さんとか、商店街の皆さんとかが買っていただくことによって所得が上がっていくという構図、それと、武雄はほかにはない利便性があります。それは温泉です。温泉と、これは松尾陽輔議員からもありましたように、温泉を活用した医療であるとか、あるいは検査に来た方々が温泉、あるいはゴルフを楽しんでいただくということで、さまざまな可能性がそこにあると思います。

そういった意味で、今後これを乗数効果を高めるためにどうすればいいのかということについては、ぜひ議員の皆さん、議会の皆さんからお知恵を授かればありがたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、医療城下町という言葉はちょっと悪かったかもしれませんが、日本の地方で初めて医療を主軸に据えてまちづくりができる、これは本当に武雄市民にとって、武雄市にとってチャンスだというふうに思っておりますので、まさにピンチの中

にチャンスがある、その芽を今後皆さんとともに育てていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

初めてこの医療城下町という名前を聞いたときに、何様だと思いましたよ。いや本当に。多くの人がそう思ったと思います。それは佐賀新聞さんが書きんざったとかもしらんですけどね。ゆめタウンの横に和白病院ができて、その周りにホテルができて、看護学校ができて、おいおい、武雄の町はどうなるんだと、そういう心配がまず最初に率直にしました。

非常に不安、不審に思った方も多いと思います。また、その時期と同じように、時期を同じにするように、今言ったゆめタウンの横にホテルができるとか、また、ここは何ですかね、地域まちづくり研究会の中でこのホテルの絵が出てみたり、いや、それは確かに、きのう松尾陽輔議員がおっしゃられた温泉とのタイアップ、また、そういう福祉としてのタイアップ、いろんな意味での武雄の町の膨らみは広がっていくかもわかりません。けど、これまで観光都市として築き上げてきた面、また、文化都市として、そして、いろんな意味での田舎の素朴な面もつくってきたわけです。そして、そこに医療城下町というのがどーんとのっかってきて、まさに和白、池友会を中心とした一つの町ができ上がるんじゃないかなと、そういう不安が、そういう不審がありました。

そういうホテルをつくるにしても、今保養村のホテルということもおっしゃいましたし、ここにあります中心市街地まちづくり研究会、この中に書いてあります、これは松原通りの再開発、開発の絵図面ですけれども、パーツ図ですけど、ここにも10階建て程度のビジネスホテルの絵がかいてある。この隣には、物産館の絵がかいてある。まして、先ほど言ったような、そういうような医療城下町という中で、じゃ、それらの既存のいわゆる宿泊産業の方たち、また、一般商業を営む方たち、そういったところのとのすり合わせが今後大変に必要になってくるし、重要になってくると思うんですよね。ですから、今の市長の思いをどういうふうにその方たちに伝えて、どういう形で伝えていくのか、お考えがあれば教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

医療城下町が何か悪い、何か押さえつけるようなことでおっしゃった。これは物事はとりようですので、私がどうこう言うつもりはないんですけども、私は佐賀新聞の方が悪いとか、私が表現の仕方が何とかという世界の話ではなくして、先ほど申し上げたように、医療を中心としたまちづくりをしたいという切なる思いで申し上げているんです。これから武

雄は生き残りを図らなければいけない。だから、そのときに何らかの特徴、あるいは市民の皆さんたちが望む特徴をやはり出していくのが議会並びに私たち、30プラス1の政治家の仕事だというふうに思っているんです。

そういった意味で、私は別に既存の産業をつぶすであるとか、既存の雇用をなくすであるとか、そういったことは一言も言うてないんですね。それを言っていたら問題であります。

したがって、私の申し上げたいことは、ただ1点であります。そういった既存の皆さんの産業であるとか雇用であるとかということと、相乗効果、協調して、競争しながら相乗効果を高めていく、これはあくまでも行政が決める、政治が決める、そういった問題ではなくて、恐らく市民の皆様たちが決める、有権者の皆さんたちが決める、あるいは観光に来たいと、武雄に行きたいといった方々が需要を受ける方々が決める話だというふうに思うんですね。

したがって、私としては、選挙戦のときでも安心と融和ということで仕事をしてきましたし、ちょっと私はまちづくり何とか研究会というのは、私は市長職から外れておりましたので、その答弁はいたさめますけれども、いずれにしても、私の思いというのはここにあるということだけはぜひ前田議員も御理解を賜っていただければありがたいと、このように思っております。

私は自分は何様だと思つつもりはありません。市民に奉仕するのが私の仕事だと、パブリックサーバントとしてのメイヤーとしての仕事だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

いや、させるとおっしゃったからね、だから、市長が言ったとは言っていませんよ。そのところを間違えんでください。そういうふうに言ったとは言っていません。

改めてお尋ねをしますが、まちづくり研究会というのはどういう性質のものですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃったまちづくり研究会、これは高架が一応暫定的に完成しています。それと、区画整理が今から松原に入っていきます。21年度移転交渉に入ります。そういうことから、大きく、何というですか、市街地部が変わるというふうに考えております。また、21年度からは西浦地区の道路計画も考えております。そういうときに、鉄道高架、あるいは区画整理を契機としたところのまちづくりをどうするんだというところから、県が予算をつくってくれたわけですね。それで、そこら辺を皆さん集めて研究会をしようやということになって開催したと、これ第1回目が12月10日に西浦地区、あるいは松原地区の地権者の方、あるいは商工会の方、あるいは業者の建築設計の方、ここら辺を集めて勉強会をしたというところで

ございます。（発言する者あり）

そういう皆さんと一緒に話し合いをしましょうというところで集まってもらったところと、今後まだ2月にも予定をしております、次の機会にですね。それで、21年度になってもまた集まってもらってやろうというふうにしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

一口で言えば、県の補助での研究会ということですね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

すみません、説明が悪くて。県の補助じゃなくて、県の予算で、土木事務所が主催です。それに武雄市のまちづくり部都市計画課がお手伝いをしているという会でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ですから、そのときに出されたこの絵はあくまでも絵であると、決まったものではないと、市としてそれを認めたものではないということですね。よろしいですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もその絵は今初めて見ましたので、あくまでも市として決めるもの、あるいは、その案というのは、少なくとも市政を預かる私が代表して議会等に出すものでありますので、それはいろんな図面が出てくる中の1つのアイデアだというふうに認識をしております。

そういう意味では、議員が先ほどおっしゃるように、単なる絵だというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

単なる絵だということでありまして、このことがどういうふうに展開していくか、今後を見守りたいと思いますし、一日も早いあそこの通りの整備事業が進みますことをお願いいたします。

続きまして、病院に移ります。

病院の総合情報システム、前回ちょっとお尋ねしていましたが、これはもう整備をされているでしょう、今後これをどう活用されるのか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

病院の総合情報システムというものにつきましては、医師が処方する投薬や外来用薬、病棟医療などを管理するオーダーリングシステムや維持管理、財務会計など病院内の情報システムを総称するものでありまして、今後もこのシステムを有効に活用し、安全管理、患者サービスの向上、収益の確保、各種統計の迅速かつ的確な把握に生かしてまいりたいというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

これも約9,000万円の費用がかかって、19年度やったですかね、に導入されているわけですよね。こういうものも今度の池友会への民間移譲によって、今後どのように活用していくかということには、その「今後」というのはそこだったんですよね。いわゆる今の武雄市民病院、池友会にお手伝いをいただいている今の武雄市民病院では活用されているんでしょうし、じゃ、民間移譲後のそのシステムというのはどうなるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

まずもって池友会が今の武雄市民病院を運営する、民間移譲後、今の位置で運営するときの活用というのはあり得るというふうには考えています。

ただ、その後どういうシステムをするかということ、池友会の急性期病院のシステムと私どものシステムが一緒なのかどうなのか、これによって活用が変わるのじゃないかなというふうに思っておりますので、今のところについては、民間移譲後については、病院段階では活用と、その後についてはわからないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

システムは一緒なのかどうか。わからない。調べていない。聞いていない。何で聞かないの。ああ、失礼、どうしてお尋ねにならないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

当然、私どもが開発する段階で池友会の存在があったわけでもなんでもありませんので、私どもは一応入札に付して安価なところで開発をお願いし、入れたわけであります。

当然、そういう詳細については今後議会のほうであらかた決定した段階から打ち合わせを行っていくということになるわけですので、調査、それから聞き取りについてはこれ以後のことになるというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

開発はいつからしたんですか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

平成19年度からでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

これはまだ続きますね。ということで次に行きます。

市民病院の移譲先選考委員会の議事録が出されました。やっといただきました。もちろんこの移譲先委員会のメンバーといいますか、委員さんも公表をしていただきました。そして、その移譲先選考委員会での答申が出されたわけですけれども、もう何度もほかの議員がお尋ねになっておられるので、どうかとは思いましたが、確認も含めて、また、何度もそういうふうなことをお話することで市長の真意が皆さん、多くの市民の皆さんが理解できるのではないかと思いますので、あえて重ねてまたお尋ねをします。

選考委員会の5回の審議で答申をまとめられました中で、武雄市の公有財産を移譲するに当たって次の事項を遵守すべきであると、実効性の担保というところで、新しい病院の経営理念に武雄市民病院のイメージ維持を掲げること、2つ目に、平成22年1月31日までの約1年6カ月間において、武雄市の意向を十分に尊重して円滑な武雄市民病院の運営に協力をし、また、移譲先として医師会との意思疎通に努めること、3つに、移譲後直ちに市民、医師会、市による評価委員会を設置し、評価委員会の意見を経営に反映するシステムをつくること、なお、評価委員会は10年以上設置すること、4つに、移譲後は年2回以上のタウンミーティングを開催し、市民との意思疎通を図ることという4つのことが上げられております。これらの移譲先に求められた条件、これは公募要領に示されたものと同様に重要な事項であると思います。これを市長は移譲先に付す考えがあらわれますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう移譲後の前に、既にこの話については池友会ともししております。したがって、私どもといたしましては、この①④ということについては引き続きやっていただくということで安心をしております。

いずれにいたしましても、8月11日の救急再開以降、本当に池友会、そして、医療統括監を初めとするスタッフの皆さん、市民病院の生え抜きの皆さん、本当によくやっていただいております。この姿がおのずと延長線上、そしてさらに、よくなってまいりますので、この①の新しい病院の経営理念に武雄市民病院のイメージ維持を掲げること。これについてはイメージ以上のことができるというふうに思っております。

②の22年1月31日までの約1年6カ月間において武雄市の意向を十分に尊重して、円滑な武雄市民病院の運営に協力し、また、移譲先として医師会との意思疎通に努めること。これについては、まず隗より始めよであります。私から辞を低くして医師会の会長様を始めとして副会長様に頭を下げて、市民の皆様のために協力をお願いしたいということを申し上げたところ、快く協力をすると、そして、民間移譲について、あるいは赤字の問題についてはこれ以上言うことはないということをおっしゃっていただき、そして、種々条件は、私が承った中でありましたけれども、基本的には協議会に入っていただくということを聞きましたので、もう既にこれもスタートをしております。非公式には池友会の幹部と医師会の幹部の方がもう会っておられます、あるいは佐賀大学の医学部とももう会っておられます。そういった意味で、もう既にスタートをしております。これも市民の皆様を守るために我々はなすべきことをちゃんとしなきゃいけないということでもあります。

③の移譲後直ちに市民、医師会、市による評価委員会を設置し、評価委員会の意見を経営に反映するシステムをつくること、なお、評価委員会は10年以上設置すること。これについては、私は既に、松尾陽輔議員を初めとして、スリープラスワンの評価委員会をつくりたいという旨を申し上げました。そして、これは初めて言う話でありますけれども、こういった議会との対話を見てみると、やはり議会人の方にもこの評価委員会にぜひ入ってほしいと、やはり議会人の方は住民の代表という重い職責を背負っておられますので、議会人にも、失礼な言い方になるかもしれませんが、議会の方にもこの3プラス1、これもう4プラス1になるかもしれませんが、入っていただくのが私の執行権者としての希望であります。これは後ほどまた、議長を初めとして議会の皆様と調整をしたいというふうに思っております。

評価委員会は10年以上設置することということについては、これは至極当然のことです。したがって、これももう既に準備は始めております。

移譲後の年2回のタウンミーティングを開催し、市民との意思疎通を図ること。これもさきの議会答弁で申し上げましたとおり、市民の説明会を移譲前から行うということでありますので、ちょっと名称はタウンミーティングとここには書いてありますけれども、その対話集会というのはきちんと行政が範をとりやっしていきたいというふうに思っておりますので、この点については、ここで言われている以上のことを池友会並びに行政ということでやらなければいけないと、既に始めていることを申し添えて、私の答弁にかえさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

2番目のところの「医師会との意思疎通に」というところ、市長は、1月になって会長と会われましたよね。その後また副会長さんともお会いになっていると思うんですが、そのことをおっしゃったのかと今思いますが、違うんですか。（発言する者あり）はい。じゃ、違うんですしたら、その1月6日の古賀会長、そして、1月9日の副会長とお会いになったときの話と、今さっきお話しされた医師会との会長、副会長と話を進めているというころの話、その違いを教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1月6日に公式に医師会長と副会長さんとお目にかかりました。そのときはもう報道にも大きく出ておりますので、お願いをした次第であります。ちょっと日にちは覚えていませんけれども、1月9日にほかの副会長さんと非公式にお目にかかりました。それは年初のあいさつと、もともとやっぱり一緒に医療をやっっていかなきゃいけないということで、非公式にお目にかかった次第であります。その上で、非公式な話として池友会の幹部が医師会の幹部にその前後して、ちょっと日にちは覚えていませんけれども、お会いをしたと、それと、それも期日を前後して佐賀大学の教授の方と池友会の幹部がお会いしたということは聞いております。

したがって、私が知る限り、公式にお会いしたのは1件、非公式に池友会並びに私がお会いしたのは3件というふうに御報告をさせていただきます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

すみません、1月6日の副会長さん、差し支えなかったらお名前を教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1月6日の午後だったと思いますけれども、三根眼科の三根副会長さんですね。これは公式ですので、私から申し上げてもいいだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その2番目の項目の要するに移譲先としての医師会とのいわゆる池友会と医師会との意思疎通もしっかり進めていかななくてはいけないということをここに書いてあるわけですね。書いてあるわけですね。ですから、今後医師会をいかに、要するに医師会としてお話を市長はひざを合わせて話を進めていかにいかにという形になっていくわけですが、そこで、医師会のほうとの意見が合わないときも出てくるわけですが、当然ね。もうはなから反対ということをおっしゃられるわけだから。選挙結果はああいう形で出ましたが、そういうことでも合わなくなってくることもあるわけで、そこら辺をしっかりと押さえて——押さえてというか、ちゃんと理解を求める努力は続けていかななくてはいけない、市長にそういう仕事はあるということを確認しておきますね。

そして、その次に、いわゆる武雄市の責務というものもここにあるわけでありまして。同じ条件であります、武雄市の責務として、武雄市は平成22年1月31日までの市民病院移譲前までに本委員会の答申または契約に関しての移譲先に重大な違反が認められた場合、契約の解除などを含む措置をとると、2番目に、その移譲先が武雄市民病院の運営への協力、医師会との意思疎通など市民病院の移譲先としてふさわしいかどうか、新たな条件を付与することを含め再評価すること、また、武雄市と移譲先の移譲契約の中に地方独立行政法人の例に準拠した評価委員会を設置することを盛り込むとともに、定期的に経営状況を武雄市に報告させること、武雄市と移譲先の移譲契約の中に10年以上の病院経営の継続を求めること、これらも書き込んであるわけです。この移譲先が市民のための病院として機能するのか、また、移譲後機能しているのかを検証するために役割を市に求めた、それを検証するものを市に求めたものであります。この答申どおりにこれを実践していかれるか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどちょっと前田議員の御質問でちょっと気になるところがありましたので、もしよろしければ答弁をまずさせていただきたいと思うんです。医師会が反対をされているということをおっしゃいましたけれども、医師会長が公式の場で、民間移譲について、あるいは市民病院の持つ赤字について、もうこれ以上言うことはない。大方の民意は得られたものという

ふうになっているということをおっしゃいました。私のほうから辞を低くして、今後市民の皆様のためにお互いに民意に従いましょうということを申し上げて、市民のために、市民の医療福祉向上を進めていきたいと思いますということを申し上げたら、それはわかりましたと。本当に私は古賀医師会長様には感謝をしております。

そういった意味で、先ほどちょっと医師会が反対されているというふうにありましたけれども、総論の進め方としては、もう一緒にやっというマインドになっておりますので、これは医師会の名誉のためにもちょっと私のほうから申し述べさせて、対話をしましたので申し添えたいというふうに思っております。

武雄市の責務については、これはもう当然至極のことです。契約を履行する上で行政は相手方と同時に監視監督する責務があります。そういったことを信友委員長様の答申に書かれたということですので、①②③、そして、これは武雄市に報告させることとありますけれども、あわせて、私どもから議会に報告をさせていただきます。本会議になるか委員会になるかは、これは議長と相談をさせていただきますけれども、議会、市民を代表される皆様方にきちんと報告をさせていただくということとしております。

これはもう至極当然のことだというふうに思っておりますので、これを池友会も全く同じ考えであるというふうにも聞いております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ここにも古賀会長さんのコメントが入っていますけどね。その際に、地域医療に対する市のスタンスをきちっと示してもらえばやりやすい。また、各紙、新聞によって若干の言葉の違いはありますが、基本的には、医師会はいつでも物を言いますよ、そういったものだ、100%それを理解して、100%それを受け入れるというふうには私はとっておりません。

当然、今の武雄市の責務であります、やはりこの議事録の中にもちょっと心配するようなことが出ていますよね。池友会から「新武雄市病院ができれば先進医療をやりたい。研修を終えて近隣の医療機関へ当直援助、診療援助に出したりしたい」。院長、「研修医レベルで救急医療を担わせようということですか」。池友会、「若い人だけで当直することはできない。研修医で主治医になれない。若い人だけで当直することはあり得ません」。院長、「心配しているのは、21年度までの市民病院の救急体制の派遣はどうなるのでしょうか」。池友会、「中堅の医師を派遣したい、我々の力で若い医師を派遣するのは難しい。新しい病院をつくって症例がたくさんあるとないと研修医の派遣は難しい」という発言とあります、委員会内での、これはプレゼンテーションのときだと思いますが、今市民病院にお医者さんは何人いますか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

現在9名です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ごめんなさい、さっきの答弁とまたちょっと違う。5名と言わんやったですか。（発言する者あり）すみません、9名の内訳も含めて教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

先ほどお答えしたとは、要は定数内で数える医師が5です。定数外は後ほどしましたとおりでありまして、正規職員採用で院長、副院長、それから、池友会派遣で7です。これは研修医も入っています。（発言する者あり）研修医は3名ですね。それから、その中には、先ほど言いましたとおり、外来に出ているうちの職員数の中に入っているのが3名ここに入ると、それと、1名については外来に出ずに、リハビリ病棟の専従医師として1名、あと非常勤特別職として医療統括監と正久部長ということになりますけれども、まずもってはその手前の9名ということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

実際現場に出ている先生、要するに何というですか、日割担当、曜日担当、その先生の数は何人ですか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

外来診療担当表に出ている医師というのは、私どもの常勤の医師、それから、たしかもう見られておっしゃっていることというふうに思いますので、例えば、池友会から外来だけに来られた医師、それから佐大から、これは放射線科と泌尿器科ですけれども、の非常勤の医師がいます。まずもって、常勤だけでお答えをしておきますけれども、外来担当表に載っている常勤医師は5名でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

次の議事録の中には、院長さんがこういうことをおっしゃっていますね。「急性期医療をやれば自分が天下をとれるんですよ。地域独占型になるんですよ。おれの言うことをきかないと患者はとらない。そういう旧大学病院がやっていたことを池友会がやっているんですよ」、これはいつかという、そういう第3回の委員会的时候ですよ。これ出されているんですから、これ読んでいいわけでしょう。

だから、そういう発言があるぐらいに、非常に院長ですらそういうふうな心配をするような病院でありますので、なおのこと今後この病院に対して、果たして今市長がおっしゃるような、遵守すべき事項とか、武雄市の責務とか、いわゆるこういったことを含めたところで守って、またしっかり監視をしていくためにも医師会の、またその議員は、そして、それ以上に市民は目を強くしていかななくてはいけないということを申し上げて、私の一般質問を終わります。